

国東市誕生にあたって

いにしへの宝を未来につなぎ

「ひたし」「ふじろ」が「ひと」になる仏の里くまをめぐって



国東市長職務執行者
齊藤 幹

平成18年3月31日、国見町・国東町・武蔵町・安岐町の4町合併により、面積317・8平方キロメートル、人口34、206人（平成17年国調）の新市「国東市」が誕生しました。

これまでを振り返ると、平成14年3月に東郡5町村でつくる「任意協議会」を発足。平成15年10月には「東国東地域町村合併協議会」を設置し、鋭意合併に関する調査・研究を実施してまいりました。

しかし、平成17年1月、姫島村が脱退。同年2月に「東国東地域4町合併協議会」として協議を継続していくことになりました。

そして同年3月29日の「合併協定調印」を経て、9月9日、総務大臣告示により、平成18年3月31日に新市「国東市」の誕生が決定しました。

紆余曲折を経てようやくたどり着いた新市誕生への道のり。これも合併協議会や各町議会、合併対策協議会での審議はもとより、住民の皆様の絶大なご理解・ご協力で心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

今回の合併は、地方分権の一層の推進、少子高齢化による人口の減少、国・地方をとりまく財政の悪化、高度情報化、日常生活権の拡大や広域化する行政課題への対応、生活意識や価値観の多様化などの対策として、合併による行政基盤の強化・一体化による効率的な運営をすることにより、「夢と希望の自主・自立のまちづくり」を目標に取り組んでまいりました。

合併は新たなまちづくりのスタートであり、住民福祉の維持・向上に有効な手段であります。

新市では、「新市建設計画」を基本に、市の将来像として「いにしへの宝を未来につなぐ仏の里くにさき」「4町共有の六郷満山の歴史・文化遺産を要として『ひと』『こころ』が一つになって扇のように世界に広がるまち」を目標に定め、「固有の歴史・文化に根ざした人・交流づくり」「新産業と次世代につながる産業づくり」「安全で快適な地球にやさしい生活環境づくり」「地域全体で支える教育文化づくり」「思いやりと温かさを育む健康と福祉づくり」の五本柱を基本方針として、積極的に行財政改革に取り組んでまいりたいと思います。どうぞ今後とも、皆様のご理解と温かいご支援・ご協力をお願い致します。

最後に、新市「国東市」の限らない発展と市民皆様のご健勝・ご多幸を心からお祈りして、国東市誕生にあたってのごあいさつと致します。